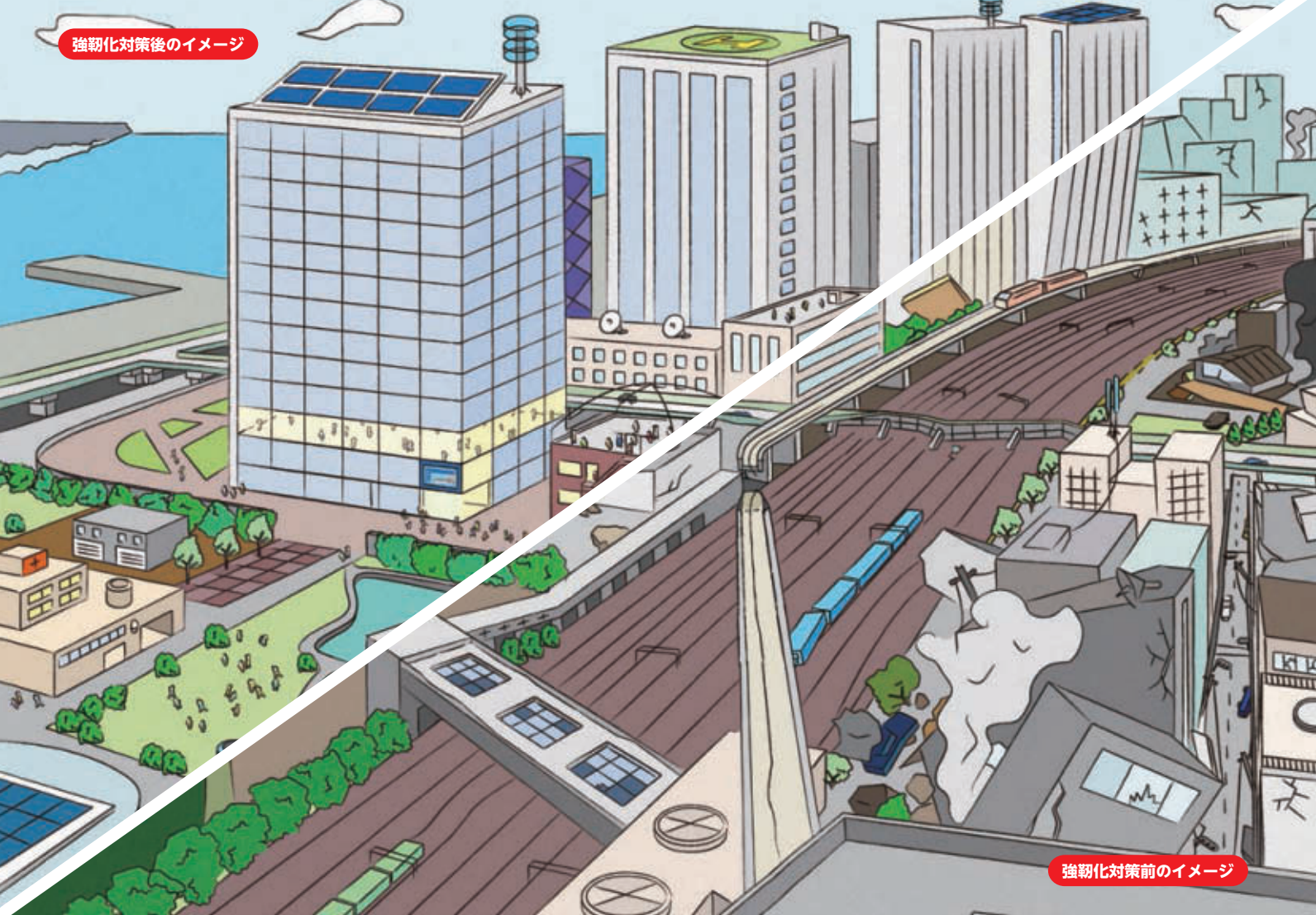


強靱化対策後のイメージ



強靱化対策前のイメージ

ISSN 1347-4502

2014 第26号

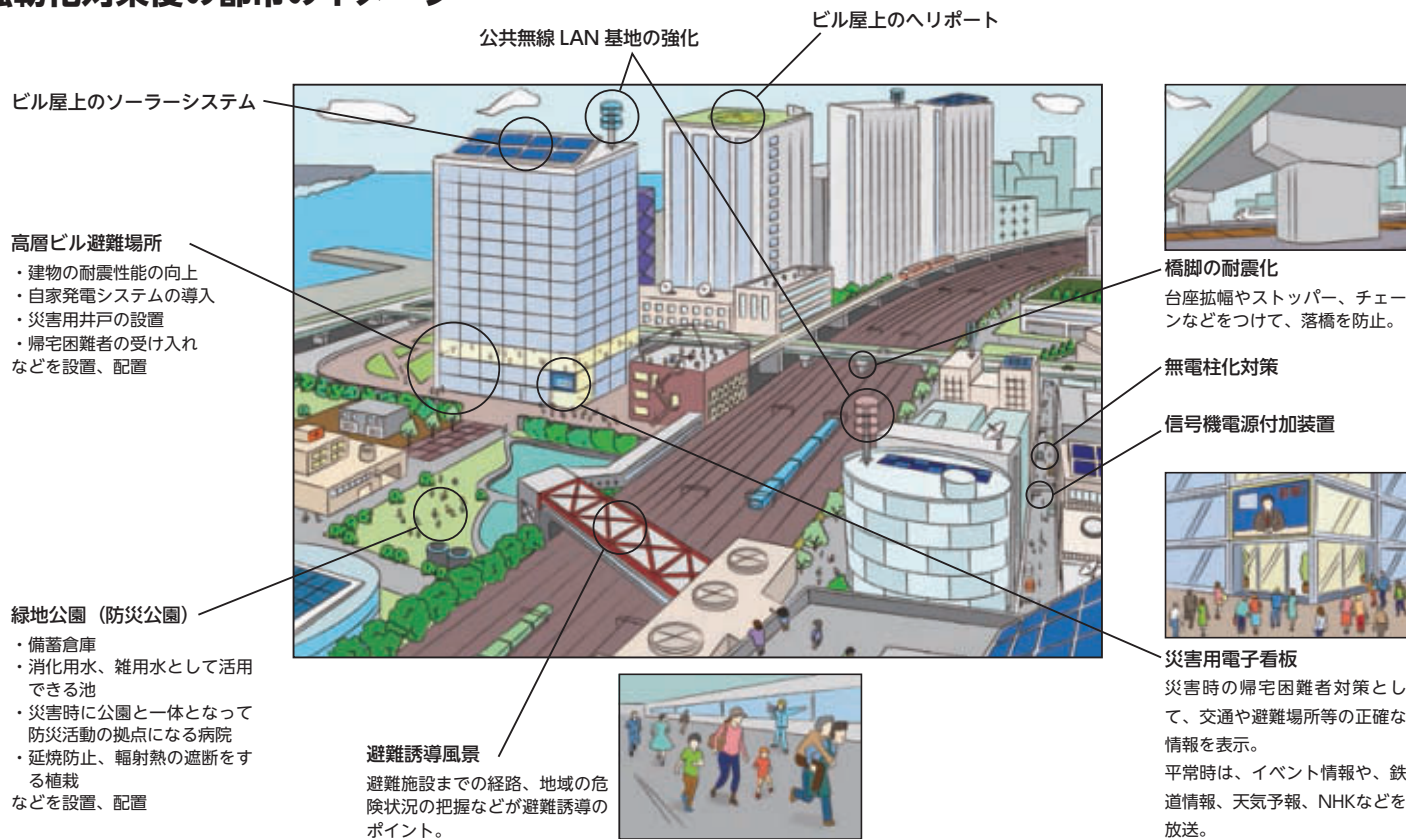
JICE

REPORT OF JAPAN INSTITUTE OF COUNTRY-LOGY AND ENGINEERING

REPORT

特集 **国土強靱化**

強靱化対策後の都市のイメージ



昔と今そして未来



昔：増上寺三解脱門からみた江戸湾（歌川広重 芝増上寺 従山門上市中眺望の図）

増上寺は徳川家の菩提寺の一つとして江戸時代には、修行僧は3千人を数え、周辺は門前町として整えられました。国の重要文化財に指定されている増上寺の三解脱門は、三つの煩惱「むさぼり、いかり、おろかさ」を解脱するとされ、高い建物のなかった当時、三解脱門より江戸湾が見通せました。

江戸の大半が被災した振袖火事と呼ばれる明歴の大火など、相次いで大火に見舞われた江戸時代には、延焼防止のための空地として「火除地」が設置され、増上寺大門前にも火除地がありました。都市の中に設けられたオープンスペースは、防火機能としてだけでなく、見世物小屋など多くの仮設小屋が設けられ、江戸の人々の娯楽にも寄与する多機能、多目的な空間として機能していました。



今：世界貿易センター 39階からみた浜松町

現在の浜松町は、世界貿易センタービルをはじめとする大型のオフィスビルが立ち並び、1964年の東京オリンピックの開催の直前に完成した東京モノレール、定期船や水上バスなどの発着所である竹芝桟橋、日の出橋、長距離バスのバスターミナルなどがあり、陸・海・空の玄関口となっています。

一方、JR浜松町駅の周辺には、狭隘な道路のまま賃貸住宅等が建設されたことにより、地震による建物の倒壊や延焼火災の危険の高い市街地が残されており、その地域の被害だけでなく、火災等による輸送機能の停止などが想定され、対策が急務となっています。



未来：強靱化対策後の都市のイメージ

災害と共存しなければならないわが国では、災害に備え、災害に強い社会を構築していくことが不可欠です。国土強靱化された都市とは、外見的にそれを表現するのが難しいものですが、強靱化に資する多岐にわたる対策は、防災、減災を基本に置きながらも平常時の機能を増進させることが可能な多機能、多目的なものであることが大切だと言えます。

表紙のイラストでは、耐震化されていなければ倒壊する可能性がある高速道路やビルなどを、強靱化対策後と対比させるためにあえて表現してみました。国土強靱化では耐震化などのハード対策だけでなく、災害発生直後の避難や早期の復旧、復興対策なども含め、災害の被害を少しでも少なくするための総合的な取組が求められています。